

授業概要

現代の乳幼児と子育て家庭を取り巻く環境を広い視野で捉え、保育・幼児教育の重要性や保育職の意義と役割等を講義する。特に前半では、保育者の制度・法令上の位置付け、服務・身分の義務と職務内容に関する基本的事項を講義する。また、様々な事例や視聴覚教材をとおして、子どもにかかわる専門職として求められる資質・能力、及び保護者・家庭支援の姿勢や専門職としての学びの必要性が理解できるようにする。後半では、保育の意義と目的、及び保育実践を支える基本的な理論と諸制度を講義する。さらに、教育専門紙、保育図書の記者・編集者としての実務経験をもとに、現代の社会的コンテクストにより生み出されている子ども・家庭の多様な課題に、保育者・教員はどのような具体的貢献ができるのかということに言及する。

授業計画

第1回	オリエンテーションー被保育体験から子どもにとってのうれしい“せんせい像”を考えつつ、社会が保育・教職に求める役割期待を理解する。保育、養護、教育等の基本用語を確認する。
第2回	様々な保育施設①ー自分の通っていた園を振り返り、多様な保育施設があること、及び施設類型に関連する諸制度にふれる。
第3回	様々な保育施設②ー多様な保育施設とそこで働く保育者の1日にふれ、保育者を取りまく資格と制度を理解する。
第4回	現代社会が求める保育者像①ーSociety5.0時代に生きる子どもたちの育ちを支えるために、指針・要領の改訂動向にふれ、「子ども主体」の保育の意義を理解する。
第5回	現代社会が求める保育者像②ー自然遊びを通して「遊びのなかの学び」を理解する。
第6回	現代社会が求める保育者像③ー「なってみる」子ども理解を通して、養護と教育の一体的な展開の意味、振り返り(省察)の意味・意義を理解する。
第7回	計画と評価の基本①ー指針・要領における「ねらい」から、方向目標の概念を理解する。園の理念と保育の特徴の関連の検討を通して、自らの保育観を見つめる。
第8回	計画と評価の基本②ーペーパークロマトグラフィの色遊びを題材に、ウェブ型記録・計画用ツールを用いて記録と計画、実践のサイクルを理解する。
第9回	計画と評価の基本③ーグループワークを通して保育におけるPDCAの意味・意義を考える。
第10回	計画と評価の基本④ーなぜ計画・評価が必要なのか、保育の現場ではどのような計画・評価が行われているのか、カリキュラムマネジメントの全体像を把握する。
第11回	子どもの権利と保育者の倫理①ーコルチャック先生の実践から、ユニセフ「児童の権利条約カード」を題材に子どもの権利について考える。
第12回	子どもの権利と保育者の倫理②ー絵本・動画を活用し子どもの人権意識の変遷と現状を理解したうえで、全国保育士会「人権擁護のためのセルフチェックリスト」による事例検討を行う。
第13回	子どもの権利と保育者の倫理③ー貧困の連鎖による結果の不平等と児童虐待の関連にふれ、保育施設や保育者の義務と役割を考える。多様な社会資源の存在を知る。
第14回	子どもの権利と保育者の倫理④ー炎上CMから現代の子育てを困難にする社会的要因を考え、保育の場における多様な子育て支援の展開を知る。
第15回	保育者の職業キャリアを通じた専門性向上の必要性・振り返りテスト

到達目標

- ・乳幼児期の子どもの保育・教育施設に関する制度の基本事項を理解し、保育者に求められる職務内容の全体像や制度上・身分上の義務を論理的に記述できる。
- ・保育者にふさわしい価値観・倫理観を自分なりの言葉で説明できる。
- ・同僚や保護者、地域社会、専門機関との連携の必要性を理解し、授業においても他者と協調・協働した学習態度をとることができる。

履修上の注意

- ・3回の遅刻・早退で1回の欠席、20分以降の入室は欠席として扱います。

予習復習

- ・予習：授業計画に沿って参考文献や関連する保育のニュース記事を一読することを推奨する。
- ・復習：授業での配布資料等をノートに整理することで理解を深めることを推奨する。

評価方法

授業態度 40%、試験 40%、レポート 20% ※詳細は第1回目に説明するので、必ず出席してください。

テキスト

- ・指定しない。必要に応じて資料を配布する。ただし、平成29年告示版『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』はいつでも参照できるように準備しておくこと。